

## 協力研究員に期待されるミッション

# 自社商品のブランディングと採用強化に向けた広報体制の構築

初の自社商品「ALCARA」の認知拡大と採用強化に向け、広報機能のない状態からPR体制の構築に挑んだ。SNSとオウンドメディアを軸に戦略を立案し、コンテンツ制作と情報発信の土台を築いた。

### 取り組み内容

#### Step 1 現状把握と課題整理

会社で運用している既存のSNSアカウントを整理し、ターゲットを明確化した。

#### Step 2 広報戦略の立案

SNS (Instagram、X等) とオウンドメディア (note) を二軸とする広報プランを策定。発信コンセプトを定め、アカウントを整備した。

#### Step 3 PR施策の実行と発信

展示会出展に合わせたプレスリリースや自治体への寄贈を取材・記事化し、SNSやnoteで計画的に発信。

#### Step 4 ブランディングと採用支援

防災コラムやショート動画、社員インタビュー記事を制作・発信し、企業イメージ向上と採用活動を後押しした。

## 受入企業

### アルミファクトリー株式会社

代表取締役 棚元 優太さん

1974年創業。産業機械や自動車、医療機械、建材などで用いられるアルミ加工品を製作する。アルミ押し出し形材の切断から加工、組み立てまでを一貫して対応するところに強みがある。「ALCARA」を手始めに自社商品の開発にも力を入れるほか、2025年1月に事業承継後は若手の登用や多様な人材の採用も進めている。

## 協力研究員

### 庄司 まみさん

宮城県生まれ。大学進学と同時に上京し、卒業後は都内の出版社で雑誌編集者として大手スポンサーのPR記事制作に従事する。育休後は、「ぐるなび」でBtoB会員向けマガジンの編集を担当。2011年にフリーランスとなり、7年前に法人化。ビジネスやライフスタイル系を中心に企業のオウンドメディアやSNSの企画・制作ほか、PR支援を幅広く手がける。

富山“Re-Design”ラボ 事例

CASE:

自社商品の認知拡大と広報体制構築



取り組みの成果  
・今後の取り組み

- ・SNSとオウンドメディアを軸とする広報体制の土台を構築。社内の人材で自走できるように運用マニュアルを整備し、後任の担当者へ引き継いだ。
- ・プレスリリースや計画的な情報発信により、防災製品メーカーとしての認知度が飛躍的に向上した。
- ・社員インタビュー等のコンテンツが、社内にも好影響を与えた。今後は社員で運用しつつ、必要に応じて研究員が記事作成やイベント企画等を支援する。

▲ 受入企業の評価・今後の関わり方

参加理由

・本プログラムには過去2回参加しており、自社だけでは数年かかるような取り組みが、圧倒的なスピードで進むと実感していました。自社商品「ALCARA」を開発し、次なる課題は全国への認知拡大と販売促進であり、広報のプロの力を借りたくて、3度目の参加を決めました。

評価（成果・社内変化など）

- ・SNSやオウンドメディアをゼロから構築してくれて、フォロワーも着実に伸びました。その結果、最近はどこへ行っても「ALCARAはどう？」と聞かれるようになり、下請けの会社ではなく、防災製品の開発に力を入れている会社という認知が急速に広まったと実感しています。
- ・社員インタビューでは、社員の本音を引き出してもらい、記事を通じてロールモデルとなる社員の考えが理解できたほか、その内容が他の社員への刺激になるなど、社内にも良い効果が生まれました。
- ・有能なプロ人材に週4日常駐してもらえるのは、地方の中小企業にとっては非常にありがたいです。新しく何かに挑戦する企業は絶対に本プログラムを活用した方がよいと思います。

今後の関わり方

・広報の土台に加え、マニュアルも作ってもらい、庄司さんはMVP級の活躍でした。12月から社員がSNSの運用などを担当しますが、庄司さんには今後、展示会への出展時などに、スポットで取材や記事作成などをお願いしたいと考えています。

▲ 協力研究員の評価・今後の展望

参加理由

・漠然と地域創生に興味があり、大学院で学び直そうかと考えていた時に、Facebook広告で本プログラムを知りました。住み慣れた東京を離れ、縁もゆかりもない富山へ行くのは不安もありましたが、リカレント教育と実務を両立できる点に魅力を感じて応募しました。

評価（取り組み・生活）

- ・棚元社長からは、コンサルティングだけでなく、手を動かしてコンテンツを作ることまでを期待されており、その役割は果たせたかなと思っています。これまで広報機能がなかった会社でも運用できるよう、SNSやオウンドメディアのノウハウを残すことができたと思います。
- ・大学での学びは、非常に有益でした。先生方の企業研究には新たな知見が多く、勉強になりました。年齢も専門も全く違う研究員仲間と議論できたことも良い刺激となりました。
- ・富山での生活も、想像以上に心地よいものでした。人も空気も食べ物も素晴らしい、雄大な立山連峰を眺めながら車で通勤する毎日が新鮮でした。夜更かしが減って健康的なリズムで過ごすことができました。

今後の展望

・広報の土台はできたと思うので、今後は記事の取材・執筆を中心にお手伝いできればと思います。また、半年間ではできなかつた「広報から仕掛けるイベント」についても企画から支援できれば理想的だと考えています。富山とのご縁を大切にし、二拠点生活も続けていきたいです。